

平成 27 年度鈴鹿工業高等専門学校入学式（学科） 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れ、桜花美しきこの良き日、平成 27 年度鈴鹿工業高等専門学校入学式を挙行できますことを、大変嬉しく思います。難関を突破し、入学許可を受け、名実ともに晴れて本校の学生となった学科新生 213 名、留学生 2 名、編入学生 1 名の併せて 216 名の学生のみなさん、誠におめでとうございます。本校を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

こうして新しい制服に身を包み、初々しさに満ちあふれ、まばゆいばかりの新生の姿をみていると、校長としても身の引き締まる思いです。私以上に、この良き日を心待ちにされていた保護者の方にとっては、さぞかし感慨無量のこととご同慶申し上げます。私ども教職員は託された責任の重さを改めて認識し、ご期待にこたえるべく気持ちを新たにしているところです。

さて、本校は、1962 年、国立高専一期校 12 校の一つとして創立し、すでに半世紀を経て、次なる 50 年に向けて「進化する高専」として歩み始めたところです。1962 年といえば、戦後の荒廃した日本を豊かにするために、高度経済成長が始まり軌道に乗りかけた時期です。高度成長の重要な担い手は工業であるとの認識のもと、全国各地に工業地帯が形成されました。鈴鹿市においても中京工業地帯の一翼を担う地域として大企業のみならず多数の中小企業が立地しました。

高専は当初は中堅技術者の養成を目的に創設されましたが、時代の変化と社会の要請に応え、15 歳の中学卒業生を受け入れる 5 年一貫教育を基本としつつも、大学編入、専攻科の設置、学校の再編統合などを進め、高等教育機関としての性格をより強め、実践性と創造性を備えた地域と世界の両方で活躍する、科学的思考を身に着けた高度の技術者の養成に努めるようになりました。

鈴鹿高専においては、当初、機械工学科、電気工学科、工業化学科の 3 学科体制で船出しましたが、いくつかの改組・拡充を経て、現在では、本科は機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の 5 学科により構成され、本科卒業生が進学する専攻科には電子機械工学専攻および応用物質工学専攻の 2 専攻が設置されています。現在、本科生 1066 名、専攻科生 59 名、合計 1125 名、内留学生 7 名となっています。

本校からは、今までに約 8000 人卒業生が巣立っていきました。卒業生の活躍ぶりは、ものづくりを担う企業の社長や幹部として、地元の産業界のみならず国内外においても活躍する人材として、高く評価されています。皆さんが学校生活を終え、社会で活躍する時代は、ますます先進的で革新的な技術開発が求められ、国内外において益々外国の人々や企業と接する機会が増える時代ですので、これから始まる高専生活においてグローバルな視点とイノベーティブな視点を持って努力をしていただきたいと思います。

さて、本校は、知・徳・体 三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、海外研修、インターンシップ、学会での研究発表、そして体育系や文化系、各種プ

プロジェクトなどに関する課外活動、さらには高専祭やオープンカレッジなどの各種イベントに積極的に取り組んでいます。私は、校長として4年目を迎えましたが、毎年、学生たちの素晴らしい力を再認識しています。各種学会での研究発表会やロボット、プログラムなどの各種コンテストでの受賞、全国高専・高校体育大会や文芸大会での数多くの優勝・入賞など、様々な分野からの表彰は鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていること示しています。これらの様子は鈴鹿高専のホームページのフォト広報に記載されていますのでご覧いただければ幸いです。

皆様はこの素晴らしい鈴鹿高専の伝統を誇りに、さらに一層発展させていただきたいと思います。それにはこれからの5年間、学生の本分である学業を基本に、課外活動、社会貢献などを通じ、自分を見つめ、そして自分をつくりながら、着実に知徳体がバランスよく発達するよう努力することが必要かと思います。そして、「地域に根差し、世界に羽ばたく、クリエイティブな鈴鹿高専」づくりに、さらに言えば地域から信頼される鈴鹿高専に向けて努力していただきたいと思います。そして、皆さんは未来の技術を担うエンジニアの卵です。すべての人が自然と共生しながら幸せに豊かに暮らせる持続可能な社会づくりに貢献する人に育ってほしいと思います。

最後に、5年間の高専生活を送る上で大切にしていいただきたいことを三つ述べ締めくくりたいと思います。一つ目は、最近の学生の状況を見ていますと心配なことがあります。入学して一年間はそれほどではないのですが、2年目になると中だるみ状態が出はじめ、予習復習の時間が少なくなり、順調に進級できない人が増えてきます。その状態が続くと、3年生で多数の専門科目が入ってきますので授業についていくのがしんどくなります。そこで、まずお願いしたいことは、生活を規則正しく、リズムをもって送ってほしいということです。一日の初めは起床ですが、これは就寝が影響します。朝一番の授業に余裕をもって間に合うよう、早寝早起きを励行してほしいと思います。

二つ目は考える態度を身に着けることです。それには、「なぜ？」と疑問を持つことが出発点です。皆さんは5年生になると、卒業研究を始めます。研究で一番大切なことは、だれも行っていない新規性のあるテーマを見つけることです。それが創造性のある論文へとつながります。課外活動や各種プロジェクトを行うに当たっても自ら考える態度は必要ですので肝に銘じてほしいと思います。

三つ目は自分を探し、自分を創ってほしいと思います。つまり、あなた自身、固有の価値に磨きをかけ、高めてほしい。これには思考と行動が必要ですので、読書と社会経験をしっかり積んでほしいと思います。

先だって、読んだ本にこのような言葉がありました。『在宅ケアの不思議な力』などの著書で知られる秋山正子さんは、「看護の基本は、その人の持っている力を引き出すこと」だと言っていると。教育も全くその通りだと思います。私たち教職員は、皆さんの持っている力を引き出すよう頑張ります。あなた方もその期待にこたえ、自らを太く大きくしてください。皆さんのこれからの学

校生活が、かけがえのない青春にふさわしい、充実した実りある時になることを祈って、お祝いと歓迎の言葉といたします。

平成 27 年 4 月 6 日

鈴鹿工業高等専門学校長
新田 保次